

中学生と日本の伝統文化

中学校と郷土の文化

〈埼玉県東秩父村立東秩父中学校〉

郷土の伝統文化を学ぶ

一 「和紙の里」東秩父村

東秩父村は和紙の里として親しまれている。この地域の和紙づくりの歴史は古く、奈良、平安時代から行われていたとする記録が残っている。東秩父村が和紙の一大産地に発展したのは江戸時代であり、当時、江戸に大量の和紙を供給していたとされる。本村の和紙は「細川紙」と分類されるがその特徴は丈夫で上品、かつ味わい深い和紙として様々な用途(灯籠、和傘、大福帳等)に用いられている。昭和五十年に手漉き和紙の製作用具と製品が国の重要有形民俗文化財に、昭和五十三年には細川紙の製紙技術も重要無形文化財に指定されている。

平成二十六年十一月には村民の長年の願いがかない、細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されるところという栄誉に輝いている。

のは文化財保護審議委員会、細川紙技術者協会、和楽器愛好会、版画家グループ、竹縄技術保存会等である。

以下、本校の実践を紹介する。

① 東秩父村を深く理解する

毎年四月下旬には地元文化財保護審議委員会の方を講師に招へいし、講義していただく。東秩父村の歴史、伝統文化、地形、産業そして細川紙等をテーマに約一時間講義していただき、東秩父村の理解を深めている。

② 東秩父村の伝統文化を体験し、習得する

ア 全校縦割りコース別体験学習

本校では現在、六コース(手漉

き和紙、木版画、和太鼓、尺八、

三味線、箏)を開設している。生

徒が選ぶコースで縦割りのクラス

を編制し、授業を行っている。講

師はその道に造詣の深い方々ばかりであるが、学校応援団コーディネーターの支援のおかげもあり、各コースに多数の講師を招へいできている。四月から九月までの五か月に総合的な学習の時間一六時間及び夏休みも利用し、習得する。



版画コース

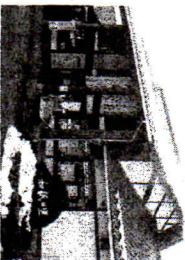
昭和六十三年に細川紙手漉き技術の伝承さらには村の活性化を図ることを目的とし、村営施設「和紙の里」を開設した。一昨年にリニューアルされたこの施設は村のシンボルであり、村民の心よりどころでもある。三年生になるとこの施設内にある和紙製造所で自分の卒業証書用紙を自分で漉いてつくる。上質な和紙を用いた卒業証書は生徒にとって大切な思い出となる。

二 「伝統文化を学ぶ」東秩父中の実践

故郷の歴史や文化を理解し、故郷を誇りに思い、そして伝統を引き継ぎ後継者育成をねらいとし、平成二十六年度より、「伝統文化を学ぶ」をテーマに取り組んでいる。本村には和紙づくりの他にも様々な伝統文化が伝承されている。今年二月に「竹縄製作用具と製品及び工程図会」が県の有形民俗文化財に指定されたばかりであるが、本村には伝統文化の伝承に尽力する様々な団体がある。そこで各団体に本校の取組への協力を要請したところ快諾を得ることができ、実現に至った。協力に応じてくれた



卒業証書用紙づくり



和紙の里

イ 学年別体験学習

○ 竹縄づくり体験(一年)

竹縄とは真竹を材料にした縄のことであるが丈夫な縄として戦前までは全国各地で生産されていた。しかし、製造技法が現在まで伝承されているのは本村だけとなった。生徒たちは竹縄づくりの手順を学び、実際に竹剥ぎ、縄縫り、こすりとといった技法を体験する。

○ 郷土史跡巡り(三年)

文化財保護審議委員会の方の案内により地元の城跡、五輪塔群、坂碑、寺を巡り地域の理解を深めている。

③ 体育祭・文化祭で発表する

五月の体育祭では和太鼓コースの生徒たちの演奏で「秩父音頭」を生徒教師保護者地域の方々が一体となって踊る。九月の文化祭では各コースごとに学習成果を披露及び発表する。

三 おわりに

少子高齢化が進む村内各地区では伝統行事の存続が危ぶまれている。後継者不足が深刻な状況下、地域は本校の取組を歓迎している。その思いに応えるべく、「伝統文化を学ぶ」を継続し、さらに推進していく。



三味線と和太鼓の共演